

はねっと 8

仙台市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



「協働」地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

学生が、安心して学べる社会にしたい

コロナによって見えてきた学生の現状

多くの学生がアルバイトや返済が必要な奨学金で学費を工面しながら学生生活を送っています。新型コロナウイルス感染拡大を受け、宮城県が4月16日に出した緊急事態宣言による様々な自粛の影響は、そんな学生たちにも及びました。アルバイト先の営業自粛により収入が減少したり、学生を支える保護者の経済状況が悪化するなど、学費や生活費を工面できない事態となっています。県内の様々な大学に通う大学生と社会人7人からなる、「みやぎ学生緊急アクション」は、県内の学生を支援するため、アンケート調査により現状を可視化。結果をもとにアルバイト情報の提供、食料の無料配布などを行っています。メンバーは、「困窮の背景には、収入減少だけでなく、学校閉鎖や外出自粛による孤立、家庭不和により頼る先がないなど、それぞれに様々な事情がある」と明かします。

学生の困窮を協働で支える

みやぎ学生緊急アクションが立ち上がったのは、2020年4月。発起人の小高紗季さんは、アルバイトで学費を工面している1人です。自身が通う大学で学費減額署名活動をする中で、仲間に声を掛けました。7日間で学生579人から回答を得たアンケート調査では、2割が経済的に困窮し退学を検討していることが判明。具体的支援内容を考えていた時、ある大学で職員が学生たちに手弁当で食料を配布していることを知りました。学費だけでなく毎日の食費にも困っているという深刻な状況に、

まずは食料支援をすることに。未経験の支援活動に助け舟を出したのは、社会課題の解決を目指し、活動する若者を支援している一般社団法人ワカツクでした。ワカツクを通じ、生活困窮者に食料支援をしているフードバンク仙台代表の小椋亘さんも参画。小椋さんは、「コロナの影響で、食料を求める声は普段の5倍に増えた。今を生きる助けになれば」と、学生たちに思いを寄せました。通常は全国から寄せられる食品を提供していますが、今回は1度に用意する食料が多いことから、学生たちの活動に賛同した人たちからの寄付金で食料を購入しました。ワカツク代表の渡邊一馬さんはコロナの影響で確保が難しくなっていた会場の準備に奔走。今後の活動計画の相談役も担います。メンバーは、「具体的支援は、自分たちだけではできなかった。一緒に取り組む人たちがいたからできたこと」と振り返ります。

学生の声を社会に届ける

食料配布は、5月30日、6月13日の2回実施し、のべ132人の食料を提供。配布会場に来た学生から、後日SNSを通じて「本当に困っていたので助かった」とコメントが寄せられ、メンバーは、「支援を必要としている人たちの存在を改めて実感した」と話します。小高さんは、「こういった学生たちの現状を社会に発信し支援につなげたい」と気持ちを新たにしています。

支援情報

特別定額給付金の申請についてや、専門家と連携した労働問題解決にも取り組んでいます。

- 新型コロナ宮城学生支援室
(団体が運営しているLINEでの相談窓口)



連絡先情報

- twitter@みやぎ学生緊急アクション

- 一般社団法人ワカツク
時間：平日 9:30 ~ 18:30
Mail：info@wakatsuku.jp

- フードバンク仙台
TEL：070-8366-3362 (活動日：月・木・金 9:00 ~ 17:30)
Mail：foodbanksendai@gmail.com



6/13、仙台市青葉区 Five Bridgeにて1週間分ずつの食料配布を行いました。



5/19、仙台市に、「新型コロナウイルス感染拡大の影響による学生への支援に関する緊急要望」を提出。6/3には宮城県にも同要望を提出しました。



活動を支える、人、モノ、こと、を募集して☑

子どもが進学をあきらめずに済む社会へ 学習支援ボランティア、寄付を募集中

日本で問題になっている経済格差は、家庭の経済状況で子どもの進路に限られる教育の格差を生んでいます。「授業についていけない」「受験したいが学力が心配」といった悩みを抱えながらも、経済的な理由から「塾に行きたいと親に言えない」子どもたちがいます。特定非営利活動法人キッズドアは、そんな中学生・高校生のために無料の学習会を開いています。

●学習支援ボランティアとして活動しませんか

勉強を教えるのは、大学生～60代までの幅広いボランティアです。勉強の仕方や、受験対策、進路についても一緒に考えます。勉強を教えられる知識のある人はもちろん、親、先生以外の相談できる存在としてコミュニケーションがとれる人を随時募集中です。



活動する中で、学習支援と同時に居場所づくりが重要だと感じ、恋愛相談など様々な話を生徒とよくしています。生徒や他のボランティアから学ぶことがとても多く楽しいです！

学習支援ボランティア
東北大学 法学部 櫻山真里花さん

●活動への寄付のお願い

学習支援はボランティアと寄付によって支えられています。子どもが身につけた知識は一生の財産となり、職業選択の幅やチャンスを広げることができます。子どもたちの未来のために、できる支援をはじめませんか？



特定非営利活動法人キッズドア東北事業部

TEL:022-354-1157

ボランティア、寄付の受付はHPをご覧ください。
学習支援を受けたい方もお気軽にご相談ください。

▼HPはこちら



活動を支える、人、モノ、こと、を募集して☑

「命の門番」大学生ゲートキーパー養成講座 参加者募集中

日本の若者の死因のうち最も多いのは自殺です。認定NPO法人Switchは、令和元年度より宮城県の委託を受け、自殺予防をはじめ、大学生を中心としたメンタルヘルス対策の推進を目的に事業を実施しています。事業のひとつ「大学生ゲートキーパー養成講座」が、今年度はオンラインで開催されます。自殺予防対策におけるゲートキーパーとは、「悩んでいる人」に気づき、声をかけ、話を聞いて、時には必要な支援につなげ、見守る人のこと。悩みを抱える人への接し方、受け止める際の自分のメンタルケアなどゲートキーパーとしての正しい知識や実践的なスキルを学び、身近な人に寄り添い支える学生を育成します。身近な仲間同士だからこそ支えられる命があります。

日時:9月8日(火)14:00～15:30 オンライン(Zoom)にて実施いたします。
対象:県内の大学生(興味がある人ならどなたでも)
申込方法:件名を「大学生ゲートキーパー養成講座受講申込」にて、お名前・大学名(何年生)・電話番号を記載して下記メールにてお申込みください。
Mail:info@npo-switch.org
お問合せ先:認定NPO法人Switch TEL:022-762-5851(担当:小関・加藤)



2020年3月に発行した
『WAKAMONO
ゲートキーパーハンドブック』▲

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 8月12日(水)、26日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>
[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>
[ツイッター] @SCSC4CA

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。
ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行 仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者:特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター)
発行日 2020年8月1日
デザイン PEACE Inc.

「ばれっと」紙面についてのお知らせ

新型コロナウイルスの影響により、社会情勢の変化が著しい中、市民活動の現場で起こっている状況に柔軟に対応するため、2020年7月号より紙面構成を変更しています。引き続きご愛読よろしく申し上げます。